

## 卒業生を迎えて介護福祉士コースのアドボカシーセミナーを開催しました

教授 渡辺裕美

大学生にとって、卒業生は自分の将来像を重ねられる、もっとも身近なモデルのひとつです。ライフデザイン学部生活支援学専攻介護福祉士コースの卒業生は、その半数近くが介護福祉士と社会福祉士(受験資格)の2つの国家資格を取得し、一般企業や公務員に就職する人もいますが、介護・福祉関連の業界に就職する人が半数以上を占めています。

そこで、現在、介護や福祉の現場で活躍する、6人の卒業生を講師に迎え、2013年10月5日(土)、今年で4回目となる介護福祉士コースのアドボカシーセミナーを開催しました。在校生は介護福祉士コースの1年生から4年生まで約120人が参加しました。



アドボカシーセミナーの第1部では、人間環境デザイン学科学科長の繁成剛教授による記念講演「介護技術と福祉用具」が行われました。姿勢と機能、座位保持についての講義、個別ニーズに合わせて設計製作されたクッション・反り返っても背もたれ角度が変化する座位保持装置の紹介、実際の福祉用具に触れる学びの場となりました。

つづく第2部では、卒業生の3人が講師となり、「私の現場体験とアドボカシー」をテーマに発表しました。福祉用具専門事業会社に勤める宮澤さんは、単に福祉用具の相談貸与ではなく福祉用具が生活の一部になるように寄り添う姿勢で接していると話しました。介護老人福祉施設に勤める住吉さんは、現場をよく知る生活相談員の強み、権利擁護、入居者の輝く瞬間を見つけることの重要性を語りました。社会福祉士と介護福祉士の2つの資格をもち、Webデザインの仕事に携わっている征矢さんは、デザインの仕事に携わる中で、現状や行動を分解してどこに課題を見つけ、解決策を試していく流れは、介護を組み立てることと通ずるものがあると伝えました。

第3部は、会場を教室から学生食堂に移し、懇親会を行いました。卒業生の輪田さん(社会福祉法人・地域包括支援センター・相談員)、中川原さん(医療法人・通所リハビリ・ケアワーカー)、高橋さん(ホテル・客室課)が在校生にメッセージを伝えた後、リラックスした雰囲気の中で、卒業生と在校生が懇談し、在校生は、卒業生から介護や福祉の現場の生の声を聴くことで、大学内の講義だけでは学べない多くのことを学びました。

